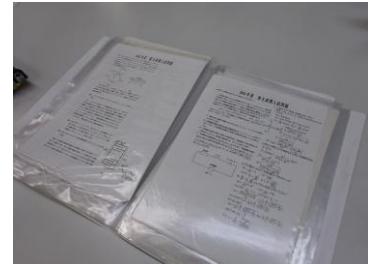




## 第9回PT会議より

### 盛高先生の講話



## 「超難関大学合格を目指す生徒を指導するにあたって」

17日のPT会議では、本校で20年、藤島高校で4年間勤務され、本校では進路指導部長も長くご担当された盛高先生を講師に迎え、超難関大学合格を目指す生徒を指導するにあたって我々がすべきことについて、ご自身の経験や知識をもとに貴重なお話をして頂きました。

#### 【東大・京大志望者の指導について】

2年生のAクラスは、1年生の国数英の成績で選抜されているため、国英が良く、理系のAクラスに入ってしまった生徒は、理科で苦勞することが多い。数学がどれだけできるのかを重視して文理分けの指導を行う必要がある。

1年生の県模試で、S1が3教科のうち1つ以上あれば、東大・京大を意識させると良い。1年生のうちから声をかけ、早めに意識付けをすることが大事。また、2年が終わるまでには、どの教科についても一度過去問に取り組みさせた方がよい。

#### 【生徒に配布するプリント作成について】

難関大、準難関大の入試問題や、夏ごろから実施されるオープン模試の問題を、コピー・切り貼りし1枚のプリントにする。Aクラスの生徒には、3年生の4月から3日に一枚のペースでこれらを渡していき、後日解答を渡す。Aクラスは進度を速めて11月頃には教科書の内容を終了させ、その後入試問題にできるだけ多く触れさせることが大事。プリントができた生徒から次のものを各自取りに来させる方式にしているが、このときの取り組みのスピード感を見れば、狙える大学のレベルの一つの目安となる。生徒は自分で色々な入試問題に取り組んでいくことは難しい。教員側から様々な問題を与え、生徒に「どのような傾向の問題が多く出題されているのか」を自分で発見させる。

#### 【入試直前の指導について】

センター試験直前でも、Aクラスには二次対策のプリントを渡し、記述力・応用力の向上を目指す。特講では、できるだけ多くの最新の問題をストックしておき、出題されそうな問題を分析して生徒に取り組みさせる。

#### 【武生高校全体としての課題】

- 教科内で、ベテラン教員と若手教員が教え合い、気軽に質問やアドバイスし合える関係を作ることが大切。
- 探究科（仮）の設置を踏まえ、すべての教員が東大・京大の指導ができる力を養っていくことが大事。日々練習問題を解き、生徒が取り組める解き方で、解答・解説を作り、すぐに生徒に提供できる状態にしておく。
- 入試直前は、各教科が連携して、小テストや課題の量を調整する（教科書の内容が終わらない教科にも配慮し、生徒が無理なく学習を進められるように）。様々な質問やアイデアが飛び出し、今後の指導について、深く考える時間となりました。入試問題の解答・解説集（上写真右）は、日頃の盛高先生の努力と、生徒を思う気持ちがいっぱい詰まったものとなっています！！

## 今月の公開授業



12/17（月）2限目、1-8で「社会を考える(20)イルカショーの是非」をテーマに現代社会の公開授業をされました。イルカについては日本の価値観と海外の価値観にずれがあることはよく報道されています。その中で、「海外の人々に対するおもてなし」という点でのイルカショーの是非について、生徒たちが熱い討論を繰り広げていました。ちなみに、この討論の是非はほぼ半々に分かれました。相道先生も「こんなに綺麗に意見が分かれるテーマは珍しい。」とおっしゃっていました。

#### 【ふたりごと】

盛高先生の入試問題のストック量に、ただ圧倒されるばかりでしたが、生徒一人一人の進路実現のために、自らも力を蓄え、かつ生徒に力をつけさせていくために、様々な取り組みをしていきたいと思ひます。  
(12月担当、吉村・松原)